

# RGMB1-011 腸内細菌 (+ビブリオ) 用培地

Ver3.1

	培地名	目的の菌	主な組成	特徴・追加情報	培地名、他
分 ③	<b>ドリガルスキー改良培地</b> Drigalski lactose agar (BTB lactose agar)	腸内細菌 (非選択分離)	乳糖 BTB(bromothymol blue)	乳糖分解菌→黄色 乳糖非分解菌→青緑色	「BTB乳糖加寒天培地」とも言う
鑑 ④	<b>マツコンキー寒天培地</b> MacConkey agar	腸内細菌 (選択鑑別)	乳糖 胆汁酸(選択剤) 中性赤(neutral red)	高圧蒸気滅菌(オートクレーブ autoclave)しない <sup>(注1)</sup> 乳糖分解菌→紅色 乳糖非分解菌→無色	MacConkeyらが1900年に開発。sorbitolを加え、EHEC O157の検査に用いる
鑑 ⑤	<b>EMB寒天培地</b> Eosin Methylene Blue Agar	腸内細菌・大腸菌群(選択鑑別)	乳糖 エオジンY メチレンブルー	大腸菌は金属光沢のある緑黒～青黒～黒色集落を作る <i>Salmonella</i> , <i>Shigella</i> は無色集落	色素(エオジンとメチレンブルー)は選択剤、および集落色調の変化に寄与する
鑑 ⑥	<b>SS寒天培地</b> Salmonella Shigella agar	<i>Salmonella</i> , <i>Shigella</i> , 腸内細菌(選択鑑別)	乳糖 胆汁酸塩(※) クエン酸塩(※) チオ硫酸塩(※) フリリアントグリーン(※) 中性赤(neutral red)	高圧蒸気滅菌をしてはいけない 培地成分の多く(※)が選択剤として働く 乳糖分解菌→紅色 乳糖非分解菌→無色 硫化水素産生→中心部黒色	サルモネラとシゲラのSS。 <i>Salmonella</i> と <i>Shigella</i> は乳糖非分解で無色の集落(+H <sub>2</sub> S産生菌は中心部黒色)
鑑 ⑦	<b>DHL寒天培地</b> Deoxycholate Hydrogen-sulfide Lactose agar	<i>Salmonella</i> , <i>Shigella</i> , 腸内細菌(選択鑑別)	乳糖 白糖 胆汁酸	高圧蒸気滅菌をしてはいけない 選択性はSS培地ほど強くない 乳糖分解菌→紅色 乳糖非分解菌→無色 硫化水素産生→中心部黒色	D: デオキシコール酸 H: 硫化水素 L: 乳糖
鑑 ⑧	<b>CIN寒天培地</b> Cefsulodin Irgasan Novobiocin agar	<i>Yersinia</i> (選択鑑別)	セフスロジン、マンニトイルガサン、酵母エキス ノビオシン、胆汁酸	高圧蒸気滅菌しない <sup>(注1)</sup> <i>Yersinia enterocolitica</i> はマンニト分解し紅色集落	C: Cefsulodin I: Irgasan (消毒剤) N: Novobiocin 25～30℃で(選択)培養
サル 増 ⑨	<b>セレナイトブロス</b> Selenite broth	<i>Salmonella</i> (選択増菌)	亜セレン酸ナトリウム 乳糖	高圧蒸気滅菌をしてはいけない 亜セレン酸ナトリウムは選択剤として働く	亜セレン酸(selenous acid)が入っている液体培地って事
確 ⑩	<b>クリグラー培地</b> Kligler agar (半斜面培地)	腸内細菌 性状確認用	ブドウ糖 乳糖 フェノールレッド	ブドウ糖:乳糖=1:10 2種類の糖分解、ガス産生性、硫化水素産生性の判定	「Double sugar iron agar」とも言う
確 ⑪	<b>TSI寒天培地</b> Triple Sugar Iron agar (半斜面培地)	腸内細菌 性状確認用	ブドウ糖 乳糖 白糖 フェノールレッド	ブドウ糖:乳糖:白糖=1:10:10 3種類の糖分解、ガス産生性、硫化水素産生性の判定	トリプルシュガーアイアン、すなわち 3つの糖と鉄。(鉄は硫化水素検出に必要)
確 ⑫	<b>LIM培地</b> Lysin Indol Motility medium (高層半流動培地)	腸内細菌 性状確認用	ブドウ糖	リジン脱炭酸酵素産生、インドール産生性(要コバック試薬)、運動性の判定	L: リジン脱炭酸 I: インドール M: 運動性 motility
確 ⑬	<b>SIM培地</b> Sulfide Indole Motility medium (高層半流動培地)	腸内細菌 性状確認用	糖を含まない	硫化水素産生性、インドール産生性(要コバック試薬)、IPA産生性、運動性の判定	S: 硫化物(硫化水素) I: インドール M: 運動性 motility
ビブ 増 ⑭	<b>アルカリ性ペプトン水</b> Alkaline Peptone water	<i>Vibrio</i> (選択増菌)	ペプトン NaCl: (1% - <i>V. cholerae</i> , 4% - <i>V. parahaemolyticus</i> )	培養時間6～8時間	NaClの存在およびアルカリ性であることが選択要因(pH8.2～9.0)
ビブ 鑑 ⑮	<b>TCBS寒天培地</b> Thiosulfate Citrate Bile salts Sucrose agar	<i>Vibrio</i> (選択鑑別)	チオ硫酸ナトリウム(sodium thiosulfate) クエン酸(Citrate) 胆汁酸(Bile salts) 白糖(Sucrose) プロモチモールブルー チモールブルー	高圧蒸気滅菌をしてはいけない コレラ[白糖分解]→黄色 腸炎ビブリオ[白糖非分解]→青～緑色(培地色)	T: チオ硫酸塩 C: クエン酸塩 B: 胆汁酸 S: 白糖 (pH8.6～9.1)
ビブ 鑑 ⑯	<b>ビブリオ寒天培地</b> Vibrio agar	<i>Vibrio</i> (選択鑑別)	チオ硫酸ナトリウム クエン酸 胆汁酸 白糖 クレゾールレッド ウォーターブルー	高圧蒸気滅菌をしてはいけない コレラ[白糖分解]→青色 腸炎ビブリオ[白糖非分解]→不透明培地色(微かに青色帯びてくすんだ赤色)集落	選択力はTCBS培地よりも低い。腸内細菌の一部も発育が可能。 (pH8.3～9.1)

注1 作製後保存する(直ちに使用しない)場合は高圧蒸気滅菌(オートクレーブ)をする。